池田　誠一

【10】現代１（昭和後期）…⑰戦災復興 ⑱デザイン博

1 戦後の名古屋

太平洋戦争で、名古屋の中心部は廃墟と化しました。名古屋城も天守が焼け落ち、名古屋人は心の支えを失ったようになりました。

しかしその廃墟を眺めて、「復興」を誓った人がいました。その一人、市長の佐藤正俊は、災いをチャンスに変え、新生・名古屋をつくる決意をしたのです。そしてすぐさま、都市計画に詳しい国家公務員だった田淵寿郎を招請し、その仕事を託しました。

それから30年。名古屋は立派な都市計画が完成し、人口も200万人を越えて、戦前以上の都市に成長しました。全国で最も戦災復興に成功した都市としての評価を得ることができたのです。

そして戦後44年目。昭和64年の市制100周年の記念事業に選ばれたのは、「世界デザイン博覧会」でした。

今回は、こうして戦災から立ち直った昭和後期の名古屋の誇り得るものを見てみたいと思います。

2 復興から次代へ

(1)戦災復興：中心部3,500ヘクタールの大改造

名古屋の戦災は東京に次ぐものだったとい

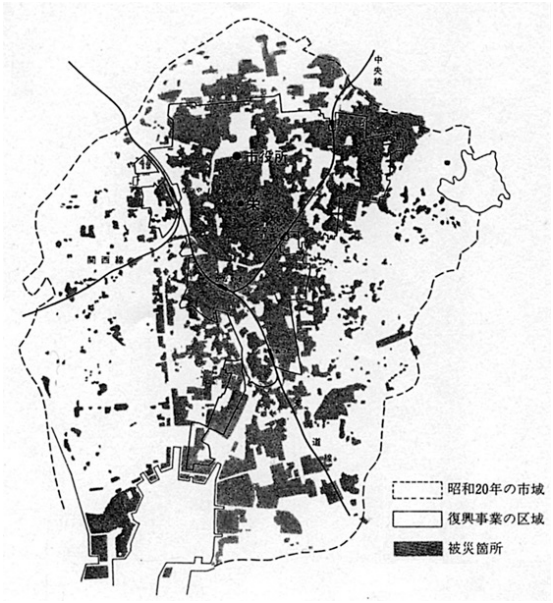


図１　名古屋市の戦災区域。都心部と工場地域だった

います。工場地域だけではなく、都心がほとんど焼け野原になったのです（図１）。

ところが名古屋の立ち上がりは早く、①終戦後一週間で測量機器が買い集められました。そして②一ヵ月後の９月には、再建する建築物に対する建築規制を行い、復興態勢に入ったのです。さらに③10月には公園道路（百米道路）が議論され、④年末には都市づくりの基本方針や道路計画の構想が出されました。⑤翌21年度予算は、早くも完全な復興予算が組まれました。その結果、⑥全国の戦災都市が住民理解で困っていた区画整理についても、１年後には戦災を受けた全地域で実施することが決まりました。

戦災復興事業をしたのは、全国で115都市になります。その事業の成否を決めたのは、24年のドッジラインによる事業の見直し（縮小）でした。国８割（県１割）という高い補助率の復興事業に大ナタが振り下ろされたのです。しかし名古屋は、その時までに区画整理地区の大半で仮換地指定が行われており、中断することができない状況になっていました。そのため見直しは、戦災がひどくなかった未着手区域や軍の用地など最小限に留めることができました（図２）。そうして名古屋市は、1,000万坪、すなわち、都心部を含む3,500㌶の大改造をすることになったのです。

この多岐に亘った膨大な戦災復興事業を総括して、成果を分かりやすくまとめたものがあります。復興事業に市役所人生を送った伊藤徳男元計画局長の著書の中の、野球に例えた説明です（文献①）。

（万坪）

	罹災区域	当初計画	見直計画
東　京	4870	6100	500
横　浜	694	626	203
名古屋	1168	1333	1056
大　阪	1530	1847	650
神　戸	590	650	500
全　国	19104	19847	8506

（注）見直計画の数値は資料によって違いがあります

図２　五大市の復興区域の見直し状況（昭和25年頃）

①本塁打は、百米道路と墓地移転
②三塁打は、鉄道沿線整備と駅前広場
③二塁打は、公園緑地の整備
④単打は、居住環境の整備

と。

①の百米道路は、南北と東西の２本の、幅100㍍余の防火帯ですが、今日の名古屋のシンボルになりました（図３）。また戦災区域内のすべての墓地を平和公園に移したことも画期的でした。②の鉄道は、中央線の立体化と地下鉄の建設でしょう。いずれもこの機会を

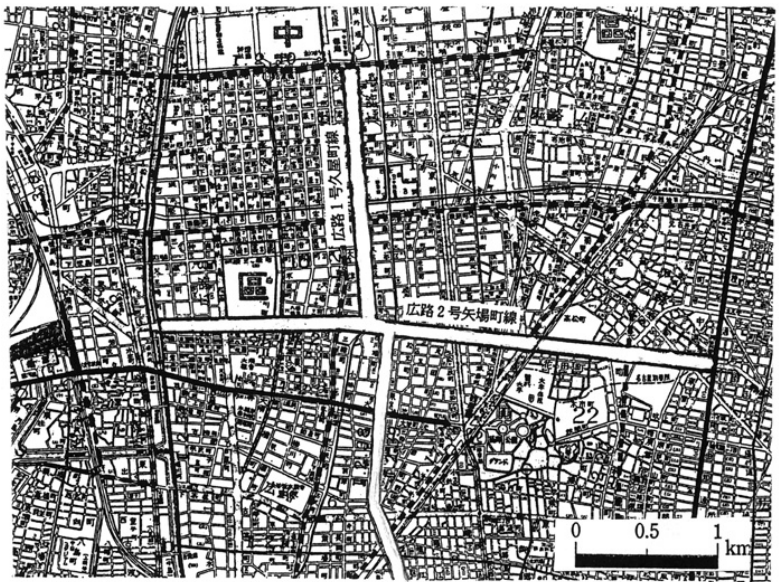


図３　市の中心部を、東西南北に分けた防火帯（文献②より作成）

逃すと実現が長引くものでした。③の公園は、買収では不可能な都心部の公園を、区画整理でつくったことです。そして④は区画整理本来の仕事で、土地を整理し、区画道路を広げました。その他にも、新制中学の用地をつくり、小学校と公園を隣接させるなど、多くの成果を上げたのです。

戦災復興は、戦災でダメージを受けた名古屋という近代都市を、戦前とは一回りスケールの大きい現代的な都市に蘇らせたといえます。

(2)デザイン博：工業都市の変身

明治22年に我が国は市制を施行しました。そのため、昭和64年（平成元年)には全国の主要都市が一斉に市制100周年になりました。各都市では、その記念事業が検討されましたが、その多くは博覧会になりました(図４)。

都　市	博 覧 会 名	期　間
鹿児島	サザンピア21	3/10－5/14
福　岡	アジア太平洋博	3/17－9/3
静　岡	駿府博	3/18－5/21
姫　路	姫路シロトピア博	3/18－6/4
堺	ダッハランド89大坂	3/19－5/21
横　浜	横浜博覧会	3/25－10/5
広　島	89海と島の博覧会	7/8－10/29
名古屋	世界デザイン博覧会	7/15－11/26
山　形	山形100フェスティバル	8/3－8/20
甲　府	甲府博覧会	9/15－11/12
大　阪	国際花と緑の博覧会	②4/1－9/30

＊乃村工藝社のホームページを参考にした

図４　全国の市制100周年記念で開催された主な博覧会(平成元年)

名古屋市も、早々と、57年にはその検討を始めています。前年のオリンピック誘致失敗から早く立ち直りたかったのでしょうか。といっても、名古屋市は一過性のイベントには慎重でした。そのため、そもそも論から出発して、まず市制100周年を「名古屋新世紀」の入口と位置付けました。次に来る新しい100年には何をするかという問いかけです。

振り返ると戦後の名古屋は、さらに工業都市の色合いを強めていました。ところが、世の中は好景気で、21世紀は「ソフト」の時代と云われていたのです。名古屋は、工業都市のまま進むのか、ソフトな都市に転身するのかが問われていたといえます。

そこに浮上したのが、世界デザイン会議の誘致でした。４年に一度、64年の大会地決定が迫っていました。デザインとは、まさに工業都市がソフトに変身するテーマといえました。そこで、その付属イベントで博覧会をしようと、誘致に走ったのです。

平成元年、世界デザイン博覧会が開催されました。会期は135日。会場は名古屋の南北軸再生をかけ、主会場を熱田区の白鳥に置き、副会場を名古屋城と名古屋港とする三会場分散方式になりました(図５)。

難しかったのは、専門性の高い「デザイン」ということを、どう一般の人に伝えるかでし

図５　名古屋の南北軸再生をねらった三会場分散方式

た。考えられたのは、究極のデザインや身近なデザインを事例で見せたこと。また、会場等にはデザインを意識した工夫をちりばめたことでしょうか。後は市民参加の演出です。そうして博覧会は、後半大きな盛り上がりを見せ、会期延長の要請の中で幕を閉じました。

同時に名古屋市は、デザインを意識した都市づくりを進めました。そして街が奇麗になったという賛辞を受けるようになりました。そのデザインへのこだわりは、その後、国連のユネスコの「創造都市」の指定で、デザイン部門では世界で第４番目に指定される都市になったのです。

(3)その他

＜愛知用水＞

戦後の名古屋の誇るものを考える時、直接名古屋市とは関わりませんが、忘れてはならないのが、愛知用水でしょう。

昭和22年の水不足を経験した知多半島の農民・久野庄太郎は、23年、仲間を集め、企画を練って、愛知用水プロジェクトに動き出しました。一農民の起こしたこの大プロジェクトは、実現に至る過程で２つの幸運がありました。一つは、理解者の中に国の情報に通じる人がいて、同年の暮れ、直接、吉田茂首相に話ができ、理解を得られたことです。首相は、「食料増産、失業対策、よいではないか」 と理解を示し、国家プロジェクトになりました。いま一つは、支援者の一人、半田市長が戦前アメリカでの記者経験があり、世界銀行へのパイプがつながったことでしょう。

水利権を得るために木曽に牧尾ダムをつくり、犬山からの100㌔を越す幹線導水路等と二つの調整池を造る大事業でした(図６)。まさに日本版のＴＶＡ(テネシー川開発)という指摘に納得します。これも名古屋として記憶しておくべきプロジェクトだといえます。

図６　愛知用水プロジェクト。
後に阿木川ダムと味噌川ダムが加わった

3紀行 百米道路

… 名古屋のシンボル空間 …

名古屋の戦災復興のシンボルと言えば二本の百米道路です。今では、南北が「久屋大通」、東西が「若宮大通」と名付けられました。ここでは、まず、若宮大通を少し見て、久屋大通を南から北へ歩くことにします。

＜大須から＞

地下鉄の大須観音駅の１番出口を出ます。北に進むと大きな交差点に出ます。若宮大通と伏見通の交差点で、この辺り、戦前は遊郭があった所ですが、広い通りで消滅しました。

若宮大通は、昭和50年代に、中央に高架

若宮大通は、その後、中央に高架道路が建設され、
ホームレスが集まった

ホームレス対策で中央に水流が造られたが…

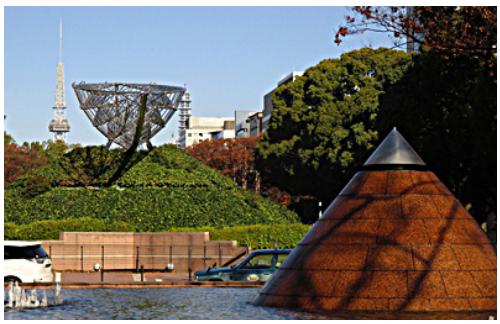
の都市高速道路が建設されたため、シンボル性を失ったようです。高架下が一時ホームレスの居住地となり、中央を通して歩くこともできなくなっています。車の多さは名古屋を東西に貫く幹線道路が、広小路以南には、この道しかないためでしょうか。

東に進むと、右側は大須地区。左側は、白川公園や若宮神社等があり、大津通と交差します。晩秋は、銀杏の黄葉が見事です。少し坂を下ると久屋大通との交点になります。

ここで、久屋大通に入る前に、東側にある堀留の下水処理場を見ておきましょう。百米道路がつくった防火帯は、ここから南は、少しずれて、この堀留から始まる新堀川とその両岸が、役割を担っているのです。

＜外堀通へ＞

さて道路を戻って、久屋大通の公園に入り北に歩きます。とすぐ、円形の池の中に円錐の台があります。これは、北側の船型のオブ



復興を記念して久屋大通公園南端からテレビ塔にレーザー光線が照射されている

久屋広場のイベント空間

ジェの上を越えて、テレビ塔上部に向けた緑色のレーザー光線の発射装置です。

北に歩くと、久屋広場と呼ばれるイベント空間が続きます。まず、扇形の音楽ができる劇場風の空間です。道路を越えると、２段になった広い長方形の広場で、催事空間として使われます。次は、噴水の出る広場になっていますが、ここも催事空間の延長です。久屋大通の広小路から南は、主にイベントの空間

ここは、空いたときは噴水広場になっている

錦通北の小さなイベント空間

の役割を担っていることがわかります。北に進むとバスターミナルを抜け、広小路通になります。

渡ると錦通との間は噴水の小さな広場ですが、ここはシーズンによって飲食店(屋台)が出ています。錦通を渡ると、テレビ塔にかけての空間で、やはりイベント空間としての利用があります。その先の、サンクンガーデンには、パリのシャンゼリゼ通との姉妹提携が謳われています。久屋大通とシャンゼリゼ通は、幅100㍍、長さ２㌔㍍とほぼ同じ規模なのです。商店街の姉妹提携の話が出て、東京の青山通と競って、ここが選ばれました。その向こうは小さな人造川の公園になってテレビ塔に続きます。

サンクンガーデンには、シャンゼリゼ通との
姉妹提携を示すしるしがある

テレビ塔は機能更新がありましたが、スッキリして継続されました。下をくぐって、駐車場を越えると桜通です。ここにはセントラルブリッジが架けられています。渡ると、こ

久屋大通公園の北端は、ケヤキの林になっている。
入口に南京市の華表が

こから北は姉妹都市の公園として整備されています。岩の公園はロスアンゼルス。小山の公園はメキシコシティ。そしてその先のケヤキの森は南京となるようです。ただ、最近は姉妹都市が増えており、課題だといえます。

以上のように歩いてくると、このシンボル道路も、機能更新の時期にあるのかなという気がします。市ではその検討が始まっているようですが、リニアの開通を見越して、名古屋を代表する空間として再設計してほしいと思います。突き当りの外堀通を左に、次の大津通を右に行くと、地下鉄の市役所駅があります。

4 エネルギーの集中

大きな都市が変化する時、そこには、都市の、そして市民のエネルギーが集中します。名古屋は、戦災から立ち直るとき、そのエネルギーを集中させ、立派な戦災復興を実現しました。そして、市制100周年の時も、苦しみましたが、名古屋新世紀を「デザイン」というキーワードで、都市エネルギーを集中できました。エネルギーが分散しては、とても都市という大きなものを変革する力にはならないからです。

デザイン博は平成という時代の初めでした。それから30年。名古屋には、ボツボツ、エネルギーが蓄積してくる頃です。10年後には、リニア中央新幹線の開業が控えます。この機を逃さず、是非、次の時代の突破口になるような試みに名古屋のエネルギーが集中できるようにしたいものです。

〈主な参考文献〉

①伊藤徳男『名古屋の街－戦災復興の記録』
(1988、中日新聞本社)
②市計画局編『名古屋都市計画史』
(1999、名古屋都市センター)
③池田誠一「名古屋の街と博覧会」
(2013、日本電気協会中部支部)